

研究・調査報告書

報告書番号	担当
379	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名（原題／訳）	
A close look at why one social norms campaign did not reduce student drinking 飲酒に関する社会規範を是正するためのキャンペーンが学生の飲酒を減少させられない理由の検討	
執筆者	
Thombs DL, Dotterer S, Olds RS, et al.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
J Am Coll Health. 2004;53:61-8.	
キーワード	
適正飲酒、大学生の飲酒習慣、宣伝、教育	
要 旨	
<p>なぜ、社会的に許される安全な範囲の飲酒習慣をしようという啓蒙活動が、学生の飲酒行動に反映しないのであろうか、というのが本研究の課題である。その3つの可能性について、規模の大きいある米国公立大学で調査したものである。啓蒙活動前に、616人の大学生に無記名調査を実施した。その後、適正飲酒キャンペーンを実施し、4年後に723人に追跡調査を実施した。追跡した学生の66.5%は啓蒙キャンペーンについては知っていた。しかし、飲酒量を減らす行動には移っていなかった。キャンペーン後の追跡調査によると、1)多くの学生が、キャンペーンに使用された統計を信用していなかった、2)特に、多く飲酒する学生ほど、キャンペーンに用いられていたデータに対する信頼が低かった、3)全体の38.5%の学生のみが、キャンペーンの意図するところを理解していた、との結果が得られた。このようなキャンペーンが飲酒者ひとりひとりの飲酒に関する社会規範に影響を与えようとするためには、いかにしてキャンペーンの伝える内容の信頼性を高め、飲酒者の理解を深めるかについての研究が更に必要である。</p>	